

研究会特別企画 速報

■日時：2009年10月30日（土）18時～22時 ■会場：ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪

《テーマ》
～「適応」から「動機づけ」へ
「職業理解」ではなく「仕事理解」へ～

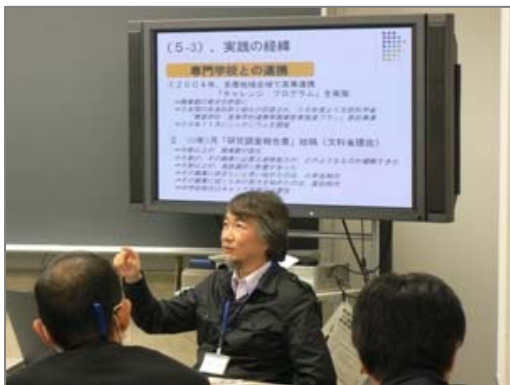
新しいキャリア教育プログラムの可能性について



“しごと観育成”研究会の特別開催プログラムは、「おおさか職業教育ナンバー1戦略」の一環として8/1に大阪で開催された「未来地図OSAKA2009」のイベントでの新しい取り組みや、高専連携のキャリア教育事例の発表などの話題提供のもと、教育学の研究者や高校・専門学校の先生方、行政担当者、企業、イベント関係者等、総勢30名の様々な立場の人達が意見を交わしました。司会は内閣府の海外視察プログラム研修でドイツから数日前に帰国したNPO法人 JAEの小林 健司氏。冒頭の挨拶は現在大阪職業教育ネットワークの座長である、佛教大学教育学部の原教授より、最近のキャリア教育のおかれている状況や今後の可能性について、この機会にみんなで勉強しましょうというお言葉で始まりまし

1. ゲスト講演「キャリア教育の現状と課題」

京都造形芸術大学 藝術学部教授 生駒 俊樹 氏



高校生には継続的な体験を。 教師も社会を知ることが大事

東京、多摩地区での「職業観教育」について取り組んでいる生駒先生にそこでの経験を通して実感されていることについて講演いただきました。最近力を入れている取り組みは、学校間連携の構想や、生徒たちに継続的に体験させることによって自己理解や社会理解を持たせること。「もしこうなったらどうする？どう生きる？」と具体的に質問を投げかけることで、考えるきっかけを作っていくそう。週2×3時間の職業体験を1年間するというプログラムを実施したところ、半数以上の生徒の職業観が変化し、6割以上がその職に必要な資格を理解。また、進路を変えた生徒も半数以上いたとのこと。このことから、職の実体がわかったから生徒は進路を再検討することができたといえます。教師側の態度としては、「アフリカの研究者がアフリカに行ったことがなければ話にならない。」と、進路指導に携わり生徒を社会に出していくからには、教師はきちんと社会について知っている必要があると同時に、社会性を自らが身につけ、態度を示すことが重要であるということをお話いただきました。

2. 講演「イベントの概要と意図の紹介」

(株)毎日コミュニケーションズ 傍島 佳久 氏



新たな形のキャリアイベント

今回開催されたイベント（未来地図OSAKA2009）の運営メンバーである傍島氏より、イベントの趣旨や目的について、お話いただきました。従来のような職業についての話を聞きに行くといった形ではない新しい視点を取り入れたことが特徴の一つであること。高校生には、13歳のハローワークワークショップを通じて、自分の「好き」や「興味」が多彩な未来につながっているということを実感してもらい、「好きっぴタウン」では、現在プロとして活躍する先輩達から「職業の概要」ではなく、「仕事のやりがい」や「うれしかったこと」といったものを伝えてもらい、「好き」や「興味」がどのように将来の仕事につながるのかを考えてもらうことを目的としたことを説明されました。

3.講演「イベントのねらいと効果～当日のアンケート結果より」

(株) 応用社会心理学研究所 調査研究プロデューサー 八木 秀泰 氏



一步をふみだす“きっかけ”に

イベントの企画にも携わり、ここ数年高校生に関する調査の分析を担当してきた八木氏がイベント参加者のアンケートデータを基にデータから見えるイベントの成果を発表しました。

まず、今回のイベントの目的は受動的に職業について学ぶのではなく、参加型イベントを通して、仕事（自分の未来）への“動機”を形成し、一步をふみだすきっかけをつくるという画期的な取り組みであったことを説明されました。参加した生徒達は、イベントを通じて「今の自分とのつながり」を見つけ、そして仕事の多様性とそこから導かれる共通性を感じてもらえたのではないかとイベントの成果を実感されていました。イベント後のアンケートにおいてもその結果は表れており、“職種を見せないイベント”により、職業を決めている人にも決めていない人にも効果の高いイベントだったことが示されていました。

4. “パネルディスカッション”

パネラー：佛教大学 教育学部教育学科教授 原 清治 氏/NPO法人JAE 理事長 山中 昌幸 氏/
大阪商工会議所 人材開発部 人材育成担当 廣田 雅美 氏/同志社大学 今村 大樹 氏/
(株) 応用社会心理学研究所 調査研究プロデューサー 八木 秀泰 氏
ファシリテーター：NPO法人JAE 小林 健司 氏



目的・目標はその先にある。

パネラーとして、5名の方が代表して、それぞれの立場から意見を述べて始めました。「自分を理解しないままキャリアの話をして、ためにはならない。今回のイベントは『自分の好きなものについて考える』といったような自己分析と抱き合わせだったので良かったと思う。」「『仕事＝自分は何ができるの?』という考えから見る自己理解が大切。」途中からは会場からも次々と発言があり、「抽象的に『自分とは?』と、考えるより、何かとの関係から見ることが多い。」と今回のイベントに関わるご意見も多く聞かれました。また、「高校生にキャリア教育をしても、大学や短大の期間を挟むとまた変わってしまうのでは。」「必要なのは『動機づけ』。勉強が手段であり、目的・目標がその先にあると気付けば、勉強にも積極的に取り組めるようになる。」「生徒と教師の縦の関係だけではなく、先輩といった斜めの関係も重要。」「生徒の心に響くことが大切。また、そのような制度を作っていくことが必要。」といったように、今後のキャリア教育の在り方につなげられるようなご意見も数多くお聞きすることができました。

【懇親会】



エレガントなレストラン実習室での本音トーク

本プログラム終了後、今回始めて研究会に参加した方から、いつもの常連メンバーという顔ぶれで参加者の半数以上の方が懇親会に参加されました。ホスピタリティ ツーリズム専門学校内にある2009年4月に完成したばかりの「レストラン&バーカウンター実習室」をお借りし、お酒やおつまみを食べながら、色んなお話をされていました。

過去、この研究会をきっかけに専門学校の授業連携や高校でのキャリアプログラム実施など様々な活動が生まれています。今回も大学生の相談に答えている専門学校の先生、最近の学校内での募集戦略の方向転換についてや、新しい教育プログラムの導入について話される先生など、ざっくばらんに語り合える場で時間を忘れての会となりました。

今回の研究会はどうでしたか。 ～参加者アンケートより～

●様々な立場、視点からの話が聞けて、とても参考になりました。面白かったし、為になった。●高校の先生の本音が聞けたことが良かった。●顔ぶれが良く、テーマも良かった。●進行と共にびんびん盛り上がってきたように感じる、パネラーの熱い語りに刺激を受けました。●時間が短く、より深く話し合いの時間をもちたかった。●みなさん画期的だと評価されているが、本当?もう少しブラッシュアップを!●高校現場では、キャリア教育は総合学習やLHRで取り組むのが一般だが、私は今授業の中で取り組んでいるので、また機会があれば発表したい。